

HANDS FRIENDS

HANDS の活動ももう 10 年。様々な方々にお世話になってきました。
今回は現地ミンダナオに滞在する 2 人の若い日本人を紹介します。

佐藤未希さん (ICAN ボランティアスタッフ)

皆さま、はじめまして。名古屋の NGO の ICAN (アイキャン) ボランティアとして、ジェネラルサントス市に滞在しています。12 月に HANDS の事業地訪問に同行させていただきました。

私が一番印象的だったのは、アトゥモロックで泊まったスタッフハウスにいた HANDS の奨学生でありワーキングスチューデントのロメロ君です。まだ小学生ですが、両親を結核で亡くしたため、スタッフハウスの手伝いをしながら学校へ通っています。「学校がない日は何をしているの?」と聞いたら、「馬の面倒や掃除、洗濯をしている」という答えでした。

私が小学生だった頃は遊んでばかりいたのになあ、と自分のことが恥ずかしくなります。

ジェネラルサントス市に住んで 7 ヶ月になりますが、先住民族に関しては全く知識がなく、同行させていただき様々な事が見えてきました。レイクセブのチボリのコミュニティは、バナナ農園が村のすぐ近くまで来ています。そのバナナには、アメリカではすでに使用が禁止されている農薬が使われているそうです。そのバナナを食べる私達の体にも影響がありますが、現地ではその農薬が風で流れて近くに住む住民や家畜にも害が及びます。また、土もやせてしまいます。そうやって今でも心無い人々から弱い者は虐げられています。もちろん、それはここミンダナオに限った事ではないですが…。このようなことが早くなくなるように、私も頑張らなくてはとつくづく感じた滞在でした。

佐藤さんからはゼネラルサントス市について、様々な情報を頂いています。滞在は 1 年間だけだそうですが、これからもよろしく願います! (事務局)



洗濯をするロメロ君。君の頑張りは伝わっているよ!
(アトゥモロック)



2004 年 7 月植林地帯の視察。海住くんが指しているのはキャッサバ。後方のラインは高さ 40cm まで育った土壌流出止めのフラミンジャ。(バンカル)

海住えいすけくん (HANDS 会員)

ダバオ・デル・スール州リトルバギオに、2004 年 11 月から滞在中の海住くんは三重県出身。HANDS の支援地域と同様に、ビラーン民族が険しい山中に分散して居住する地域です。その子弟の教育のために建てられたミッションスクールの寮に寄宿中。英語・セブアノ語・ビラーン語を勉強しながら、寮の屋根の修繕を手伝ったり、大工小屋を建てたり、川へ泳ぎに行ったりと楽しそうです。12 月の訪問に同行してもらい、いろいろ比較してもらいました。次回のニュースレターでは、海住くん自身から日々の生活について報告していただきます。